

嬉石松原地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会 議事要旨

記

- 日時 平成 28 年 11 月 29 日（火）18 時 30 分～20 時 30 分
- 場所 釜石情報交流センター 釜石 PIT
- 次第
 1. 市長からの挨拶
 2. 本日の趣旨とこれまでのふりかえり
 3. 復興まちづくり計画の進捗状況について
 - ① 復興まちづくり計画の進捗状況の概要
 - ② 工期の延伸について
 - ③ 宅地引渡しが遅れる主な理由
 4. 宅地引渡し可能時期のお知らせについて
 5. 宅地品質の考え方について
 6. 土地区画整理事業の換地処分に向けたスケジュール（案）について
 7. 町界の変更について
 8. 住宅再建に係る補助制度について
 9. 復興公営住宅について
 10. 甲子川水門について
 11. 意見交換

①説明資料 29 頁の「①宅地引渡し可能時期のお知らせ」とは、9 ヶ月前に知らせが来るものか？それとも、6 ヶ月前に知らせが来るものか？
②市から宅地を早期引渡しされた後、自力再建者が自ら地盤調査を行ったところ、地盤支持力が 30 k N/m²を下回る結果が出た場合、市は対応してくれるのか？
③今年の 7 月から 8 月にかけて、市から自力再建調査票が来たが、その調査結果において、何か問題があったか確認したい。

- ①建築工事着工可能な時期の約3ヶ月前までに、各地権者に文書でお知らせいたします。
- ②地盤支持力に関しては、まずは管理基準値の30k N/m²を下回ることがないように、盛土の施工中や施工後、確実に締め固めされているかを確認した後に、宅地の引渡しを行っています。
万が一、引渡しを行った宅地が、管理基準値の30k N/m²を下回ることがあった場合については、市がしっかりと対応させていただきます。もし、そのような結果が出た際には、ご相談していただきたいと思います。
- ③自力再建調査の結果については、回収率が低く約41%でした。その後、回答がなかった方々に対して、電話や訪問による意向確認を行っております。
自力再建調査の回答結果を見ますと、これまで自力再建を希望されていた方の中には、自力再建するまでに時間が掛かっている状況から、復興公営住宅の入居に切り替えたいと希望される方も、新たに出てきております。
今後も引き続き、一件一件対応して意向を確認して行きたいと思います。

①工事の終了時期をはっきりさせていただきたい。今年の5月に確認した際は、来年3月に終わると言われた。その後、9月に再度確認したところ、来年4月には引き渡しできると言われたことから、先月、住宅建築会社と契約を行った。それからすぐ、今回のまちづくり協議会において、遅れが生じると説明されても困る。しっかりと説明をしていただきたい。

②現在、大平の仮設住宅に入居しているが、周りに住まれる仮設住宅の方々は、ほとんどが復興公営住宅への入居が決まっている。そうすると、自力再建する家庭だけが仮設住宅に数ヶ月残ることになってしまう。このまま大平仮設住宅に居れるのか？それとも、他の仮設住宅へ集約されるのか、確認したい。

③資材が高騰していると聞いているが、市の補助金などを検討してもらえないか？

- ①嬉石松原地区の工事が遅れてしまったことについて、深くお詫び申し上げます。今後は、個別に宅地引渡し時期を調整させていただきたいと思います。
ハウスメーカーに対しても、市により積極的に関わって説明してまいりたいと思います。
- ②仮設住宅の全体的な集約計画はありますが、嬉石松原地区の復興公営住宅の入居時期や宅地の引渡し時期に遅れが生じているため、柔軟に対応してまいりたいと思います。できれば、ご自宅の建築工事が完了するまで、大平仮設住宅に住んで頂けるようにしたいと思っております。
しかし、どうしても仮設住宅を集約することになった場合については、最低でも6ヶ月前にはご連絡いたします。
- ③建築資材の高騰については、現時点で補助金の交付対象とはなっておりませんが、検討して参りたいと思います。

説明資料 52 頁の国道 45 号と記載されている箇所には交差点が移動するのか？現在、嬉石町に入る交差点は仮設なのか？

→ 国道 45 号と記載される箇所のすぐ下にある丁字の交差点は、昔あった交差点の位置になります。現在、嬉石町に設けられている交差点が最終的な位置となっております。暫定で、カーブがきつくなっておりますが、今後、区画整理事業において、幅員 10m で整備します。

(市長) : 本日は寒い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

冒頭でも申し上げましたが、予定していた宅地引渡しスケジュールが遅れてしまったことにつきましては、改めて深くお詫び申し上げます。

本日、新たなスケジュールを提示させていただきましたが、これからはしっかりと工事が進められるよう、管理して参りたいと思います。先ほど、たくさんのご質問をいただきましたが、私が改めて思ったこととお話しさせていただきます。

自力再建調査に関して一番心配していることは、復興公営住宅に入居を希望される方が、もっと増加するのかといったところを心配しております。復興公営住宅は、各地区に約 1,300 戸整備することを予定しておりますが、震災から 5 年と 8 ヶ月経過して、これまで自力再建を希望されていた方で、復興公営住宅の入居希望に切り替える方も出てきております。復興公営住宅の整備戸数が増加することにより、また新たな場所に復興公営住宅を建てなければなりません。できれば、そのような状況にならないよう、復興公営住宅への入居が内定していた方が、状況の変化により、入居を取り消して生じた空き室に、復興公営住宅の入居希望に切り替える方が、うまく入ることができればいいなと思っております。地域の皆さまのご理解を頂きながら、自力再建調査にご協力を頂きたいと思っております。

未だに意向確認が取れていない方が、去年は約 200 世帯おりましたが、現在は約 50 世帯まで減りました。しかし、まだ 50 世帯の方々が、意向を答えることができていない状況であるため、最後の一人までしっかりと意向確認を行いたいと思っております。

それから、まちづくり協議会において、宅地引渡しスケジュールをお示ししましたが、宅地引渡しスケジュールが遅れてしまったこと、大変申し訳ございません。

市として、しっかりと約束を守りたいと思っておりますし、万が一、遅れるようなことがありましたら、事前に皆さまへお知らせいたします。

宅地の早期引渡しについては、東北電力・NTT などの電柱や上下水道工事がしっかりと完了した後に、宅地の引渡しを行うことが理想ですが、その前に建築工事に着工できるよう、家が完成した頃に、周辺のインフラが整うようにしますので、宅地の早期引渡しの約 3 ヶ月前に宅地引渡し可能時期のお知らせをいたします。早期引渡しを希望される方は、市担当者と相談していただきたいと思っております。

嬉石松原地区につきましては、約 500 世帯の方々が被災されており、意向調査を行いながら復興事業を進めております。復興公営住宅への入居を希望される方は、内定しておりますが、これから家を建てたいと言われる方が、一人でも増えることを望んで

おり、たくさんの方が嬉石松原地区に戻って来ていただきたいと思います。
まだ、時間は掛かるとは思いますが、新たな地域づくりに向け、皆さまには、ぜひとも協力していただきながら、これからの発展を目指していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
今度、説明する時には、予定通り工事が進んでいることをお伝えできるよう、頑張っ
てまいります。今後とも、よろしく願いいたします。

(閉会 20 : 30)

以上